

森のデザイン

日時：平成28年10月1日（土） 9：00～17：00

講師：中島 彩、丹羽 健司

概況



森のデザイン

明確な目標を持って施業計画を立てることが重要である。間伐の意義や選木方法についての講義を聞いた後、フィールドでその実践を行った。またチェーンソーの基礎的な使い方を学んだ。

○なぜ間伐は必要なのか

人工林を育てる際、間伐することを前提にたくさんの苗木（標準：1ヘクタールあたり3000本）を植える。なぜ最初から低い密度で植えないのか。

- ・ある程度の過密状態で育てることにより、成長が抑えられて緻密な材になる。（低密度で育てると樹幹の上方部の細りが著しい梢殺（うらごけ）材となる）
- ・たくさんの木の中から、良い木を選んで育てることが出来る。
- ・他の植生が生える隙を与えない。

○間伐しないと森林はどうなるか

間伐 = 樹高と直径のバランスをとるための作業

＜樹高成長(伸長成長)＞

土壤の肥沃度の影響が大きい(栄養を含んだ土壤が雨で流されるため、一般的に土壤の肥沃度は尾根筋で低く、谷筋で高い)。

＜直径成長(肥大成長)＞

光環境の影響が大きい。間伐がされていない過密な林内では、枝が枯れ上がり、樹冠が小さく(葉量が少なく)なるため、樹高に対して直径の成長が遅いいわゆる「もやし林」となる。

○間伐の効果

- ・光が入り、光合成が活発になる。
- ・樹高と直径のバランスがとれ、風に強くなる。
- ・下層植生が多様になり、土壤が肥沃になる。
- ・下層植生の根が拡がり、土壤流出防止機能が高まる。
- ・根が拡がることにより、土中に隙間が増え、水源涵養機能が高まる。
- ・地上・土壤中の生きものが多様になる。

○間伐に必要なこと

間伐をする際に必要なこと、考えなくてはいけないこととして多くの要素が挙げられるが(適切な本数、コスト、選木する目、倒す方向、安全、体力 等)、最も大切なのは、どういう山にしたいのかという目標を明確にして、将来設計を持つことである(経済林、環境林)。

○間伐する木の選び方、将来木施業

育ちが悪い、品質が悪い、曲がっているといった木を、明確な基準なく選ぶのではなく、将来に残したい、育成すべき木を選んで、その成長を妨げる木を選んで間伐する方法を採ると、選木に迷いがなくなる。ただし、経済林であれば、枯死しそうな危険な木や病虫害の巣となる弱った木は伐る必要がある。

○実習

・選木の実践

(プロットの設定、胸高直径の測定、伐る本数の確認、残す木と伐る木の選定)

・チェーンソーの持ち方・姿勢

(チェーンソーの重さを分散させる安定した姿勢、こまめにブレーキをかけることの重

要性、エンジンをかける際の注意点など)

- ・講師による伐倒の実演
- ・丸太伐りの練習
- ・受け口の練習